

令和6年度 第1回 丹波市立図書館協議会 会議録（要旨）

◇日 時：令和6年6月6日（木）

◇開 会：午前10時00分

◇閉 会：午後12時30分

◇会 場：丹波市立中央図書館

◇出席者：（会 長）畑田 久祐

（委 員）藤原 廣宣 蔦木 伸一郎 由良 ゆかり 伏田 雅子

中岡 恵美 上山 未登利 細見 能成

◇欠席者：（副会長）中澤 利恵 井上 直志

1. 開 会

進行：丹波市教育委員会教育部社会教育・文化財課 課長 小島 崇史（以下、課長）

2. あいさつ

丹波市立図書館 館長 近藤 利明（以下、館長）

3. 任命書の交付

4. 自己紹介（委員・事務局）

5. 会長副会長の選出・あいさつ

課長 会長と副会長の選出をさせていただきたいが、立候補はあるか。ないようであれば、事務局からお願いしている方でご紹介させていただいてよいか。

委員一同 はい。

課長 畑田委員に会長を、中澤委員に副会長をお世話になりたい。

6. 報告・協議事項

以下の事項は、会長の進行による。

（1）令和5年度 図書館事業実績と利用統計について

①令和5年度事業取組実績

資料1-1

説明：図書館係 係長 高見 弘子（以下、係長）

委員

色々事業をたくさんされていてすごいと思う。実績に関しては、もう少し数値的なものがある方が良いと思う。例えば、図書館の見学が何校あったか、子ども司書認定者の活動が何回あったかなど、できるだけ数値で出せるものは数値で出させていただくと、経年で比較した時に、今年の実績がどうであったかを振り返りしやすいと思う。

貸出状況や利用状況は、今回は資料の中にはあるのか。

係長

できるだけ数値を取るようにしたい。

貸出状況や利用状況は、本日の資料配付となったが、後程、説明する。

②利用統計（当日配布）

資料1-2

説明：係長

委員

3. 個人貸出冊数（居住地別・年齢別）について、ここに示している人口1人当たり貸出冊数の人口の分け方は旧町ごとの人口数をベースに出しているのか。

係長

お見込みのとおり。

委員

4. 個人貸出冊数の貸出人数について、1.16や1.46と、1を超えているが、どのように捉えたらよいのか。

係長

システム管理上のことにもなるが、1人が色々な図書館を利用されており、延べ人数を集計しているためこのような数字になっており、丹波市の人口を超えた数値である。

委員

柏原図書館が蔵書冊数に対する貸出数がとても多いという印象だが、事務局はどのような分析をしているか。

係長

柏原図書館はいつも忙しい。また住民センターのフリースペースは学生がいつもたくさんいる。多くの方が足を運んで図書館を利用されていることは間違いないが、複合施設内には支所や体育館、隣には丹波の森公苑があり、立地的な理由もあると思う。

会長

貸出冊数は年々下がっている。図書館を利用している方は市民の中で固定されているのではないかと思う。今後、図書館のあり方を考える時に、新しく図書館を利用される方を増やす施策を考える必要がある。現在は、図書館を利用しなくても本を読める環境があるので、図書館を利用する魅力をもっとアピールしない限り、この状況は続くと思うので、この統計をみて課題を感じた。

係長

ソフト事業を仕掛けていく必要があると考えている。図書館でイベントを行い、初めて来た人に、図書館という施設を体験をしてもらう所から、という姿勢が大事だと考えている。

説明：係長

会長

電子図書館の利用状況は統計年報に反映されているか。

係長

今は、反映していない。電子図書館は、図書館システムと全く違うシステムであるので、同じ数値の取り方ができない。そのため、別の形で報告しているが、できるだけ近い形で報告できるようにシステム会社と相談したい。

会長

電子図書館も図書館を利用している実績なので、できるだけ反映できるようにしてほしい。

委員

学校がタブレット ID で電子図書館を利用できるようになったとのことだが、具体的な利用開始はいつからか。

係長

学校教育課が令和 6 年 5 月の校長会で説明した。

委員

学校のタブレット ID で利用している人の利用登録者数はわかるのか。

係長

学校教育課に確認する。

(確認結果：小学校児童 2,922 人、同教員 390 人、中学校生徒 1,575 人、同教員 186 人、計 5,073 人)

委員

どの学校からどれぐらい利用しているかはわかるのか。

係長

タブレットの学校ごとの ID がわかるので、そこから割り出せるかもしれない。

電子図書館のシステムには、個人情報を全く載せていないので、利用者の統計が取りにくいという面はあるが、できるだけ模索していきたい。

委員

電子図書館について、郷土資料の電子化もできるときいたが、そのように展開できると学校も利用できて良いと思う。一度電子化すれば誰でもタブレットで丹波市の資料を見ることができるので、子どもにとっても大人にとってもすごく便利であるため進めていただきたい。

係長

検討する。

(2) 令和6年度 図書館事業について

資料2

説明：係長

(3) 第2次「丹波市図書館のあり方」策定について

①策定スケジュール

資料3-1

②コアメンバー会議委員の任命について

資料3-2

説明：係長

会長

コアメンバーの委員の方は、大変お忙しいと思うが、よろしくお願ひしたい。

③現行の「丹波市立図書館のあり方」評価検証について

資料3-3

説明：係長

委員

できるものは数値で示していただきたい。

それから、評価については、何か指標を作って、100点満点中何点とすると、わかりやすくなり、ここは概ねできていた、この部分は10年かけたけれど全然進まなかったのが次の10年でしなければならないということがわかりやすくなると思う。

課長

客観的に見た数値や実施してきた数は出せるが、何%またはABC評価については、もともとの目標設定がそのような指標で設定していないので示しにくいところがある。できる限りの対応で行う。

委員

現行の「図書館のあり方」評価検証の案ということだが、どのように作業していくのか。

課長

今のあり方というものがあり、項目ごとに細かく分かれているが、まず、10年かけてやってきたことができていないのかを検証する。そこで、概ねできているものについては、引き続きやっていけば良いもの、または、打ち切った方が良いものを検証する。さらに、課題の部分については、当初やろうとしていたことがなかなか進まなかったということがあるので、それは今後のあり方の中にも入れ込んで考えていかなければいけない。加えて、これから実施する市民アンケートやヒアリングにより出てくる「もっと図書館がこうになったらいいよね」という意見を入れたものを「図書館のあり方」として今年度新しく作ってきたい。

課題や細かい事業については、翌年の図書館基本計画に細かく事業ベースで記載したいと考えている。

④基礎調査の実施（アンケートほか）について

資料3-4

説明：係長

会長

このような取り組みを行うことを、もっと広く市民に周知していく方法を検討してほしい。市民活動センターで周知いただくことも大事だと思う。外へ向けての周知が基礎調査の前に大事だと思うので検討してほしい。

7. 基調講演「市民とともに考えるこれからの図書館」（意見交換）

講師（オブザーバー） 京都橘大学：嶋田教授

8. その他

9. 閉会